東京都立葛西南高等学校　令和5年度　日本史A　年間授業計画

教科:（　地歴　）科目:（　3年日本史A　）単位数:（　2　）単位　対象:（　第3学年1組～7組　）

教科担当者:（　1組～7組:氏名　石川　孝行　㊞　）

使用教科書:『高校日本史A　新訂版』(実教出版、平成31年)

使用教材:　東京都教育委員会『江戸から東京へ』

	指導内容 【年間授業計画】	日本史Aの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	予定時数
4月	第３章　帝国とデモクラシー 第２節　ヴェルサイユ体制とロシア革命 ３　ワシントン体制とアジア	○大戦後の中国・朝鮮における民族運動の高まりにも注目しながら、第一次世界大戦からヴェルサイユ=ワシントン体制の成立までの世界史的激動に日本がどう対処したかを整理する。 ○列強の仲間入りを果たした日本をアメリカ中心の協調体制に組み込むものとして、ワシントン体制を理解していく。	○近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を理解しているか。 ○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。	2
	第４章　デモクラシーの展開と帝国の変容 第１節　都市化と市民文化 １　アジアのなかのモダニズム ２　改造の時代	○大戦後の世界的なデモクラシーの風潮や労働者の増大を背景に、多方面で社会運動の高まりが見られたことを理解する。 ○藩閥政治に代わり、本格的な政党内閣が成立する過程を学び、戦前の政治体制の基本的な変遷を概観する。		2
	３　都市の生活と農村の生活 ４　移動する人々	○労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、学問・芸術・出版などを具体的に取り上げながら、市民文化の特色について理解する。 ○日本経済が発展する中で、日本が多くの移民を送り出したことにも着目し、それに伴う国家間関係の変化やその影響も理解する。		2
5月	第２節　東アジアの情勢と恐慌 １　大日本帝国の選択肢	○第一次世界大戦によって一時的な繁栄を謳歌した日本経済が、大戦終結や関東大震災によって深刻な打撃をこうむる過程を理解する。 ○不況下で実施された普通選挙により無産政党が躍進したことを学び、政府がこれに対して厳しい姿勢をとったことが、後の思想や言論の統制強化、軍部の台頭につながったことを理解する。	○近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を理解しているか。 ○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。	2
	２　昭和恐慌	○金融恐慌から金解禁を経て、昭和恐慌に至る日本経済の動揺を、世界経済との関連に注意しながら理解する。 ○不況下で金融や産業の独占が進み、中国侵略をめざす軍国主義化の機運や社会不安が高まったことで、世界恐慌の影響を大きく受けて昭和恐慌が起こった経緯を理解する。		2
	第５章　アジアの戦争と第二次世界大戦 第１節　日中１５年戦争 １　満州事変	○田中・浜口両内閣期に、対外的には協調外交が、内政的には政党政治がゆきづまっていく過程を理解する。 ○昭和恐慌の中で、特に農村部に生じた深刻な危機に着目しながら、それが日本の中国進出に影響していく過程を理解する。		2

	指導内容 【年間授業計画】	日本史Ａの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	予定時数
６月	1　満州事変	○社会主義運動への弾圧の流れの中で国内の戦争反対勢力が排除される中、満州事変に始まる中国侵略の本格化と五・一五事件による政党政治の終焉という内外の激動が、連動して進行する過程を理解する。 ○満州事変を推し進めた結果、日本が国際社会から孤立していく経緯を理解する。	○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解や立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。 ○近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。	2
	2　モダン都市と危機の農村	○昭和恐慌によって農村部が受けた打撃が、メディアなどの影響により、対外膨張政策へとつながっていく過程を理解する。 ○恐慌に伴う社会主義運動の高まりと、これに対する徹底した弾圧の動きを、次第に緊迫する内外情勢と関連させて理解する。		2
	3　日中戦争	○二・二六事件を契機として、軍部の政治的発言権が増大する中、ついに中国との全面戦争に突入していく過程を理解する。 ○二・二六事件とその処分の結果、軍内部の組織が統一され、統制力がかえって強まり、発言力が増していく経緯を理解する。		2
	4　総動員の時代	○軍需が支えとなって日本経済が恐慌を脱出し、重化学工業化が進む一方、経済の全面に渡って国家統制が強化される過程を学ぶ。 ○戦時下の国民統制や国民生活の実情を具体例を挙げながら学ぶ。		2
７月	第２節　アジア太平洋戦争 1　アジア太平洋戦争	○第二次世界大戦が始まると、ドイツとの同盟を強めることで英米との戦争も辞さないという空気が高まったことが日米開戦につながったことを理解し、太平洋戦争の経緯を学ぶ。 ○日米交渉から開戦、緒戦段階の日本の優勢から米軍の全面的反攻、終戦に至るまでの日米戦争の全過程を、戦争に伴う国民生活の全面的崩壊とともに整理する。	○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解や立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。 ○近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。	2
	＜歴史を深める＞ 戦前・戦後日本の軍事力	○日本がアメリカとの戦争に踏みきった理由を、経済的背景を含めて総合的に考察する。 ○空襲・沖縄戦・原爆投下などに加え、アジア各地での戦闘の具体的内容や、占領地域での住民動員の具体的事例などを紹介しながら、戦前の日本の軍事体制を理解する。		2
９月	2　戦時下の社会と抵抗	○学徒出陣や勤労動員など、総員体制で国民が戦争に動員されていったことを具体的事例を示しながら概観する。 ○戦争への全面協力を求められる中で、少数の文学者や名もない庶民の落書きや替え歌などにより、極めてわずかでありながらも戦争への抵抗感が示されたことも学ぶ。	○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解や立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。 ○近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。	2
	3　大東亜共栄圏	○戦争の目的とされた「大東亜共栄圏」というスローガンに着目し、その名の元に植民地で行われた日本軍による「皇民化」政策や強制連行などについて学ぶ。 ○戦局が悪化した経緯と、それを政府が国民に隠したため戦争終結への大きな動きが起きなかったことを学び、そのことが本土空襲による大きな被害につながったことを理解する。		2
	4　アジアのなかの「敗戦」 5　敗戦前後の暮らし	○日本の優勢が覆り、米軍の全面的反攻、終戦に至るまでの経緯を、戦争に伴う国民生活の全面的崩壊とともに整理する。 ○国民生活の崩壊と、終戦後の復員と引き上げの問題に着目し、戦争が国内外に残した多大な影響を概観する。		2

	指導内容 【年間授業計画】	日本史Ａの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	予定時数
10月	第６章　現代日本の源流 第１節　戦後世界と日本 １　戦後の世界	○戦後の新しい世界秩序を踏まえながら、占領政策及び戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ○アメリカとソ連の関係性の変化が、解放されたアジアの植民地に、後世に残る大きな影響を与えたことを学ぶ。	○近現代の歴史的事象と現在との結びつきを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意義に気付き、関心を持って学習に取り組めているか。 ○近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、歴史的に形成された諸課題について、様々な理解や立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。	2
	２　日本占領	○間接統治の形態と、五大改革指令の内容を理解し、現在に繋がる日本社会の諸改革を理解する。 ○労働三法・教育基本法などの具体的な法令を取り上げながら、五大改革をはじめとするＧＨＱによる諸政策が、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことを理解する。		2
	３　国民主権と日本国憲法	○女性参政権が認められ、政党政治が復活する中、主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の３原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を、国民生活の状況を踏まえて理解する。 ○旧憲法と新憲法を比較しながら、新憲法の理念とその意義を学ぶ。		2
	４　民主主義とアメリカ化	○政治・経済・教育の各分野において、現代まで残るアメリカの影響を概観する。 ○生活様式や文化などのアメリカ化を理解する。		2
11月	第２節　冷戦と日米安保体制 １　朝鮮戦争	○平和を模索する動きの中から国際連合が成立した一方、アメリカとソ連を二つの極とする東西冷戦が始まったことを理解する。 ○中華人民共和国の成立や朝鮮戦争の勃発という対外的変化が、経済面の経済安定九原則、政治面の警察予備隊の新設などの占領政策の転換に与えた影響を理解する。	○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解や立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。 ○近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。	2
	２　サンフランシスコ体制	○東西冷戦による対立が激しくなる中、日本がアメリカ側の諸国のみとサンフランシスコ平和条約を調印し、独立を回復した経緯を学ぶ。 ○サンフランシスコ平和条約の調印による日本の独立国としての主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を理解する。		2
	３　沖縄と旧植民地 ４　平和運動の展開	○連合国による日本の占領が終結したことと、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。 ○特に沖縄と旧植民地に焦点をあて、現代に至るまで残る諸課題を理解し、その解決へ向けて行われている試みを学ぶ。		2
12月	５　戦後の社会と文化	○冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本の国際連合への加盟、アメリカ・ソ連・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目しながら、独立回復後の日本の動きの概略を理解する。 ○ＭＳＡ協定・新安保条約・日ソ共同宣言・日韓基本条約・ＬＴ貿易などを取り上げ、外交・政治の再編過程を把握する。	○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解や立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。 ○近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。	2
	６　５５年体制と安保	○第三世界が台頭し、東西冷戦が平和共存に向けて動く中、日米安全保障条約の改正を目指した政府の主張とそれに反対した人々の意見を整理し、安保条約が改定された経緯を理解する。 ○保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察する。		2

	指導内容 【年間授業計画】	日本史Ａの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	予定時数
１月	第７章　冷戦のなかの経済成長 第１節　高度経済成長下の日本 １　日韓条約とベトナム戦争	○１９６０年代に経済の高度成長が実現し、大衆消費社会が到来したことを学ぶ。 ○アジアの旧植民地に対する謝罪や補償の問題を概観する中で、特に朝鮮半島に焦点をあて、韓国とのみの国交正常化に至るまでの経緯を理解する。 ○ベトナム戦争が世界に与えた影響を概観する。	○近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を理解しているか。 ○近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。	2
	２　沖縄返還と日中関係	○終戦後の沖縄がたどった道のりを概観し、返還に至るまでの経緯と、返還後も「基地の島」として米軍の駐留が続く現状とその問題を理解する。 ○日中関係の正常化と、現在まで続く両国の課題を考察する。		2
２月	３　首都圏と太平洋ベルト地帯 ４　新たな生活スタイルと社会への問い	○経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を、多面的・多角的に考察する。 ○産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを理解する。 ○消費革命による従来からの社会の変貌と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題の概要を理解する。	○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解や立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。 ○近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を理解しているか。	2
	第２節　経済大国 １　石油危機 ２　家族と労働の変化	○ドル=ショックや石油危機によるマイナス成長に対する政府の行財政改革について、身近な事例を取り上げながら考察する。 ○消費の拡大による豊かさの享受交通網の整備などによる都市化、マスメディアの発達などを取り上げる一方で、農村の過疎化や、核家族化、公害問題などの問題について理解する。		2